

東日本大震災から10年 災害への備えを忘れずに

固危機管理室 ☎ 826・1111 内線2292

東日本大震災の発生から、今月11日で10年が経過します。この震災は、東北地方や関東地方に甚大な被害をもたらした。本市にも建物やライフラインなどに大きな損害を与えました。建物や道路は修復され、街は震災前の姿を取り戻していますが、災害はまたいつ襲ってくるかわかりません。

そこで今号では、震災当時の様子を写真で振り返るとともに、震災での経験を活かした市の取り組みや、災害への備えなど、震災を含めた災害に関する情報をお知らせします。

東日本大震災 発生当時の記録



沈下した歩道(藤沢)



栄利橋付近の道路に入った亀裂(藤沢新田)



(市立武道館駐車場)



(東小学校)



倒壊した柵(乙戸沼公園)

震災の経験を活かした
市の取り組み

災害用井戸の整備

東日本大震災では断水になり、水道が通常の給水を開始するまでに5日間かかりました。そこで、安定して飲料水や生活用水を市民の皆さんに提供するため、避難所となる中学校などに災害用井戸や耐震性貯水槽を整備しました。

災害時には、給水車や災害用井戸、耐震性貯水槽など複数の給水手段で、より確実に水を供給できるようになりました。

災害用井戸／土浦第一中学校、第四中学校、第五中学校、第六中学校、都和中学校、新治学園義務教育学校
耐震性貯水槽／都和南小学校、土浦第一中学校、第二中学校、第三中学校、消防本部



災害用井戸

災害対策用備品の整備

トイレが使用できないときのために、下水道マンホールに直接設置できるマンホールトイレや、停電に対応するための発電機などを新たに災害



瓦屋根の損傷(まちかど蔵「野村」)



城壁が剥がれた西櫓(亀城公園)



液状化現象により



福島県からの避難者受け入れ
(水郷体育館)



震災発生時刻で止まった時計(旧新治中学校)



集められた瓦礫



給水車にできた行列(土浦第一中学校)



書籍が散乱した書庫(旧市立図書館)



校庭の陥没



IP無線の端末

IP無線を設置
市主要機関や学校など計100か所に、災害に強いIP無線を設置しました。震災以前には無線が設置されていなかった施設にも同無線が設置されています。この無線は広範囲で利用でき、混信が起きづらいため、安定した通信が可能です。これにより、災害時に各機関へ、より確実な情報伝達が行えるようになりました。

ネットワーク環境の整備
震災時、市ホームページは、アクセスの集中などのため繋がりにくくなることがありました。そこで、災害時のネットワーク環境を改善するために、災害時専用ページを作成し、サーバーの強化を行いました。



マンホールトイレ

対策用備品として整備しています。市内小・中学校などの防災倉庫に配備されています。

家族防災会議を開こう

3月11日を家族防災会議の日として、被害の発生を想定した家族防災会議を開きましよう。日頃からの防災への取り組みが被害の軽減につながります。家族防災会議を開くときは、①知る、②確認する、③準備する、④情報を入手する、⑤避難行動をとる、の順に整理して話し合いましよう。

①知る

災害にはどのようなものがあり、どういった被害が想定されるのか、正しい知識を身につけて災害に備えましよう。

【被害例】

急傾斜地の崩壊、液状化、建物の倒壊、洪水、氾濫 など

②確認する

ハザードマップの確認や街歩きをして、自宅周辺の危険箇所や避難場所・避難経路などを確認してみましよう。



ハザードマップ



平常時

わが家の防災チェック項目

家族で話し合っておくべきこと

- ☐ 災害発生時の役割分担を決める
- ☐ 避難場所と避難ルートを決める
- ☐ 情報の入手手段、伝達方法を家族で共有する
- ☐ 家族との連絡方法や集合場所を決める
- ☐ 防災用備蓄品の準備と確認をする



防災用備蓄品の確認(例)

非常用生活用品

- ☐ 飲料水 ☐ 非常食 ☐ 使い捨ての食器など ☐ カセットコンロ ☐ 予備カセットボンベ ☐ ライター・マッチ
- ☐ 懐中電灯・ランタンなど ☐ ラジオ ☐ ソーラー式充電器 ☐ 医療品 ☐ 衛生用品 ☐ 災害用トイレ など

持ち出し品

- ☐ 携帯ラジオ ☐ 飲料水 ☐ 非常食 ☐ 懐中電灯 ☐ 現金・貴重品 ☐ 衣類など ☐ 雨具 ☐ カイロ ☐ マスク
- ☐ 衛生用品 ☐ お薬手帳 ☐ 医療品(常備薬、体温計など) ☐ 軍手 ☐ ロープ ☐ ビニール袋 など

● 上記は一例です。赤ちゃんがいる家庭ではミルクやおむつなど、持病がある方は薬など、それぞれの事情に合わせた準備が必要となります。最低でも3日分の食料や水、生活用品などを準備しておきましよう。また、持ち出し品は避難時にすぐに持ち出せるようリュックなどに備えて定期的に点検をしましよう。



● 食品を備蓄する場合は、普段から少し多めに食材を買っておき、使った分だけ新しく買い足していくことで、常に一定量の食料を家に備蓄しておく「ローリングストック」がおすすめです。

命を守る
最善の行動を

最善の行動を

総務課危機管理室
齊藤雅大 消防士長

近年、大雨など身近な自然災害が激甚化し、災害を引き起こすことが多くなっています。また、新型コロナウイルス感染症の拡大もあり避難所での感染リスクから避難を躊躇することもあるかと思いますが、しかしながら、浸水想定区域や土砂災害警戒区域に居住しているなど、被災の恐れがある場合には迷わず避難行動をとるようしましよう。リスクを恐れて避難行動がとれず、被害に遭っては本末転倒です。

一口に避難行動といっても、いつも、誰でも同じとは限りません。避難所へ向かうことだけが避難行動ではありません。安全な親戚や知人宅へ早めに避難することも有効な避難行動の一つです。避難行動は、災害の種類や居住地、外出時なのか在宅時なのか、年齢や性別など、その人が置かれている状況により何が最善なのかを自分で考え判断し

災害への備えを忘れずに



⑤ **避難行動をとる**
緊急時には、早めの避難が大切です。避難が必要と判断した場合には、冷静かつ速やかに命を守る行動をとります。

④ **情報入手する**
災害の予測情報や被害状況など、情報は自身がどう行動すべきかの判断材料となります。入手した情報を適切に判断し、避難行動につなげましょう。

③ **準備する**
災害の種類や自宅周辺の危険により、とるべき避難行動は異なります。下の「防災チェック項目」を参考に家庭の事情にあったチェックシートを作成して、それぞれの避難にあった準備を整えておきましょう。

災害時

地震に備えて

- ☐ 家の耐震化を行っている（旧耐震の場合）
- ☐ ブロック塀の安全点検をしている
- ☐ ベランダに落下しそうなものを置いていない
- ☐ プロパンガスボンベや灯油タンクなどの転倒防止対策をしている
- ☐ 窓ガラスに飛散防止フィルムを貼っている
- ☐ 消火器を用意して、使い方を確認している
- ☐ 家具類や大型家電製品の転倒防止対策をしている
- ☐ 家具の上に重いものや危険なものを置いていない
- ☐ カーテンは防災処理を施したものを使用している
- ☐ 玄関や廊下、階段など避難経路になる場所に、家具や荷物を置いていない
- ☐ 感震ブレーカーを設置している

など

風水害に備えて

- ☐ 自宅が浸水想定区域や土砂災害警戒区域にあるのか確認している
- ☐ 屋根の点検や補修をしている（瓦のズレやトタンのめくれなど）
- ☐ 屋外に風で飛ばされそうなものを置いていない
- ☐ 雨樋の詰まりや雨戸のガタつきの点検をしている
- ☐ 側溝のゴミや土砂を取り除き、雨水の排水の流れを良くしている
- ☐ 浸水の心配がある場合は、土のうを用意している
- ☐ 洪水ハザードマップや土砂災害避難地図を見やすい場所に貼るか、すぐに取り出せるよう保管している

など

新型コロナウイルスなどの感染症を踏まえた避難について

避難所では密集状態になりやすく、対策を行っても感染症の集団感染の恐れがあります。そのため、被災の心配がない安全な親戚・知人宅などへ滞在するなど分散避難を検討してください。避難所を利用する場合には、体温計やマスクなどの衛生用品、毛布やタオルを持参し、次の点に注意して、感染予防に協力ください。

- ☐ 咳エチケットやこまめな手洗いの徹底
- ☐ 避難所内での不要な移動を控える
- ☐ 避難者同士の間隔を保つ
- ☐ お互いに配慮をした避難生活を心掛ける
- ☐ 近距離での会話は最低限に

り災証明書の発行申請について

「り災証明書」とは、災害によって被害を受けた場合に、被害程度を認定して証明する書類で、各種支援や保険の請求などで必要になります。住家以外の被害には「被災証明書」を発行いたします。

申請には被害状況の分かる写真が必要になります。日時や、被害状況を詳細に写真などで記録してください。また、申請まで期間が空いてしまうと、災害による被害と認定ができなくなる場合があるため、申請はできる限り早めに行ってください。

私は、防災が生活の一部にあることが大切だと感じています。防災のために準備するのではなく、普段使っているものが、いざというときは災害時の備えとして力を発揮するようにしていく。普段の生活が災害時の備えになっていくことが、最善の避難行動の助けになるのではないのでしょうか。